和田 岳さんの

身近な鳥から鳥類学

第18回　数を数えて分布を調べる

１月といえば、ガンカモ調査の月。そこで今回は、水鳥のカウントに注目してみます。カウントして分かることは鳥の個体数ですが、本当に知りたい事は他にあるのが普通。今回のテーマは、分布を知るための水鳥のカウントです。

●日本全国規模の水鳥のカウント調査

日本で一番長く大規模に鳥の数を数え続けている調査は、毎年１月半ばに日本全国で行われるガンカモ調査でしょう。何年も続く調査だと、個体数の増減に目が行きがちですが、地点・地域ごとにみることで、分布について考える事ができます。笠原・神山（2011）は、1996～2011年のガンカモ調査の結果を解析し、オカヨシガモが関東・中部で減少しているのに対して、近畿・中国で増加していることを示しています。つまり、オカヨシガモの分布の中心は東日本から西日本に移りつつあるのです。

浦ほか（2008）は、1996年度と2001年度の冬の「鳥の生息環境モニタリング調査」を比較しました。これは、全国272ヶ所の湖沼・河川・内湾で実施された水鳥カウントです。その結果、たとえばオカヨシガモ、バン、オオバンは西日本に多いこと。一方、ミコアイサはかつては関東以南に主に生息していたのが、関東以北での生息数が増えていることなどを示しています。

このように、あるエリアでのカウントを、複数回繰り返すと、そのエリアでの個体数の増減だけでなく、分布の変化を知ることができます。

●都道府県規模でのカモメの分布調査

小林ほか（1991）は、1987～1988年の２～３月に、山口県の海岸線全域と福岡県の海岸線の３／４の合計160地点でカモメ類の個体数を数えました。その結果、日本海から玄界灘の外海側には主にウミネコが、瀬戸内海側には主にユリカモメが分布していることを示しました。

図１：ユリカモメ　大津川（納家　仁）

大阪鳥類研究グループが2010年12月～2011年1月に大阪湾岸106ヶ所で調べた結果でも、ユリカモメは大阪湾の湾奥に、ウミネコは湾口周辺におもに分布していました（和田2011）。

このように、エリアを決めて、その中の複数地点を一度調べれば、分布について色々わかってきます。都道府県規模の調査なら、頑張れば一人でも取り組めます。

●野外で実際に観察してみよう

個体数の増減や季節変化を調べるカウントは、結果が出るまでに時間がかかります。でも、分布を調べるためのカウントは、決めた範囲を一気に回ってしまえば、結果が出ます。せっかちにオススメです。自宅近くの河川を、山際から河口まで歩いてカウントすれば、海からの距離に応じた分布がわかります。家の近所のため池をすべて巡ってカウントすれば、どんな池に水鳥が多いかを考えられます。ちなみに私がいま気に入っている調査は、漁港の水鳥カウント。旅行のついでにいかがでしょう？

図２：ウミネコ　男里川（納家　仁）

●引用文献

浦　達也・山田泰広・加藤和明・金井　裕（2008）越冬期におけるガンカモ類の個体数および生息場所の特性　全国的な鳥類調査「鳥の生息環境モニタリング　湖沼と河川をしらべる」より．Strix 26：31-63.

笠原里恵・神山和夫（2011）日本で越冬するカモ類の1996年～2009年における個体数変化の地域的傾向．日本生態学会誌60(1)：35-51.

小林繁樹・平野敏明・村本和之・林　修（1991）厳冬期におけるカモメ類の生息分布．Strix 10：161-170.

和田岳（2011）大阪湾カモメ類分布調査2011報告．大阪鳥類研究グループ会報 (90)：7-11.

和田　岳（わだ　たけし）：本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。ＨＰ「和田の鳥小屋」
http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html